

# 勤<sup>きん</sup>勞<sup>ろう</sup>奉<sup>ほう</sup>仕<sup>し</sup>と松<sup>まつ</sup>山<sup>やま</sup>海<sup>かい</sup>軍<sup>ぐん</sup>航<sup>こう</sup>空<sup>くう</sup>隊<sup>たい</sup>基<sup>き</sup>地<sup>ち</sup>

松山海軍航空隊基地の造成にあたっては、吉田浜の砂丘の土砂のほか、海底から汲み上げた土砂や岩子山等の爆破によって得た赤土や栗石等が使用されました。

この整地造成等の作業には、市内の中等学校・高等学校・高等専門学校・師範学校等の生徒達のほか県内の青年団等による勤勞奉仕によって、昭和一七年七月から始められていきます<sup>(155)</sup>。

昭和一九年四月からは学生達による土製の掩体壕造りが始まります。この作業に従事した学生たちは、モッコ担ぎで大変苦しい作業の日々だった事を戦後に語られています。土製の掩体壕は一基造るのに約三ヶ月掛かっていたようで、その作業中、米軍機による空襲に遭うこともありました<sup>(1)</sup>。

参考文献…(1) 愛媛県生涯学習センターHP 1996 「(2) もっこを担いで」

『ふるさと愛媛学調査報告書 えひめの景観』

- (2) 愛媛県立松山北高等学校 2001 『愛媛県立松山北高等学校 創立百周年記念誌』
- (3) 新田高等学校 1978 『創立四十周年記念誌』
- (4) 松山高等学校同窓会 1984 『松山高等学校創立六十五周年記念 真善美』
- (5) 作道好男 1984 『愛媛大学教育学部百年史』教育文化出版 教育科学研究所